

下
 知
 心
 中
 有
 一
 物
 不
 可
 言
 說
 此
 物
 乃
 是
 吾
 人
 之
 性
 也
 性
 者
 天
 地
 萬
 物
 之
 本
 也
 性
 之
 為
 用
 無
 窮
 而
 其
 理
 則
 一
 也
 故
 曰
 性
 理
 一
 也
 而
 其
 用
 則
 各
 異
 也
 如
 水
 火
 風
 土
 四
 大
 之
 用
 雖
 異
 而
 其
 理
 則
 一
 也
 性
 亦
 然
 也
 性
 之
 為
 用
 無
 窮
 而
 其
 理
 則
 一
 也
 故
 曰
 性
 理
 一
 也
 而
 其
 用
 則
 各
 異
 也

三子

[illegible]

三

上

印

[illegible]

(Illegible cursive Japanese calligraphy)

三

426

一

[illegible]

江川公之次子
 上野公之次子
 江川公之次子
 上野公之次子
 江川公之次子
 上野公之次子

張

研春 睡妃 花羞妃

花紅白二種アリ紅花

乙巳年上

以上

6.1
A
/

个十元

三月

十日

日

三月十日 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

三月十日 竹を伐る 竹を伐る

[illegible]

平

子

十

一 字加あを訓假字あ

一、以「情」爲「主」，「理」爲「輔」。

卷之六
四日云云
溪川小收
前為山
無以之矣

平

何

市玉梅名府志札字第一上別便
完
方

是日始知
 此乃一
 日之始
 也

千日中一箇一箇をばたきしるは
紅白のついでに又赤くもなる
赤くもなるは
三日月

ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

女にあら

口説

紅白のついでに又赤くもなる
赤くもなるは
三日月

ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

紅白のついでに

千日中一箇一箇をばたきしるは
紅白のついでに又赤くもなる
赤くもなるは
三日月

おれはこれにて
おれはこれにて
おれはこれにて

おれはこれにて
おれはこれにて
おれはこれにて

おれはこれにて
おれはこれにて
おれはこれにて

おれはこれにて
おれはこれにて
おれはこれにて

三月

十八日

一

おれはこれにて
おれはこれにて
おれはこれにて

一 江戸の町を歩くと、人々の足音は、
石畳の道を叩く。その音は、
心の中に響く。それは、
昔の記憶を呼び起こす。
そして、未来を予言する。
それは、
命の鼓動である。

一 江戸の町を歩くと、
人々の足音は、
石畳の道を叩く。
その音は、
心の中に響く。
それは、
昔の記憶を呼び起こす。
そして、未来を予言する。
それは、
命の鼓動である。

一 江戸の町を歩くと、
人々の足音は、
石畳の道を叩く。
その音は、
心の中に響く。
それは、
昔の記憶を呼び起こす。
そして、未来を予言する。
それは、
命の鼓動である。

一 江戸の町を歩くと、
人々の足音は、
石畳の道を叩く。
その音は、
心の中に響く。
それは、
昔の記憶を呼び起こす。
そして、未来を予言する。
それは、
命の鼓動である。

[illegible]

右商部司馬年書於此

[illegible]

一 所あるはゆきふりてある
あまのうきまにまじりてある
いふまじりてある

うきま

一 村あるはゆきふりてある
村のまじりてある
あまのうきまにまじりてある
いふまじりてある
うきまにまじりてある
いふまじりてある
うきまにまじりてある
いふまじりてある

一 村あるはゆきふりてある
村のまじりてある
あまのうきまにまじりてある
いふまじりてある
うきまにまじりてある
いふまじりてある
うきまにまじりてある
いふまじりてある

うきま

うきま

うきま

一 村あるはゆきふりてある
村のまじりてある
あまのうきまにまじりてある
いふまじりてある
うきまにまじりてある
いふまじりてある
うきまにまじりてある
いふまじりてある

[illegible][illegible]

あるべきものなり
あるべきものなり

あるべきものなり
あるべきものなり

あるべきものなり
あるべきものなり

あるべきものなり
あるべきものなり

あるべきものなり
あるべきものなり

現中事新参之性也
車轉たわめり各府
少中しき市協門
下中られし和信
改修家等し上と
中何ら上

三十一のり

西中村役人新参者より出た

山竹城守
中事新参者より出た

和参人より村中
先酒當り出た
及又り出た
石橋村中川村
中事新参者より
用水より出た
中事新参者より
中事新参者より
中事新参者より
中事新参者より

三
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

有司此為書曰此印
付我之通書也
一書
二書
三書
四書
五書
六書
七書
八書
九書
十書

此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃

此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃
此書乃